

日本労働研究機構(JIL)発表
平成14年11月12日

連絡先	日本労働研究機構(会長 花見 忠) 研究所長 小野 旭 統括研究員 吉田 修 職業情報研究担当 石井 徹 (tishi@jil.go.jp) 電話 03-5991-5184(ダイヤルイン) 所在地 東京都練馬区上石神井4-8-23
-----	--

新しい若年層向け職業ガイダンスツール 「職業ハンドブックOHBY(オービィ)」

- 中学・高校生が自分で職業選び・自己発見ができるガイダンスシステム -

日本労働研究機構では、近年、若年層における失業・フリーター化・離転職が大きな社会問題として注目され、その対策の主要な要素として職業情報の充実が求められていることを受け、平成11年から若年層を対象とした新しい職業ガイダンスツールとして「職業ハンドブックOHBY(オービィ)」の開発を進めてきたところであり、今般、開発を終え公表頒布の運びとなったためここに発表する。

【要 旨】

1. 職業ハンドブックOHBY(オービィ)とは?

職業ハンドブックOHBY(Occupation HandBook for Youth)は、高校生を中心に中学生から大学生までの若年層を対象とした新しいスタイルの職業情報・職業ガイダンスシステムである。

パソコンの画面上で、利用者がOHBYを通じて自由に職業の世界を探検し、心理テストにトライすることによって、「職業」や「働くということ」、さらに「自分の特性」について考え、学び、将来の職業キャリアを選びとってゆく力を身に付けることを目的としている。

2. OHBY開発の背景

現在、若年層においては就職難や学卒無業・フリーター化、離転職が急増し、「定職につけない・つかない」若者の問題が深刻化してきており、この背景として景気・雇用の低迷とともに若年層の職業意識の発達の遅れが指摘されている。

若い世代の人々が、自分の進路を見つけ、社会に独り立ちして活躍していくためには、数多い職業の世界から、興味関心がもてる職業を見出し、かつ、自分の個性に合った職業

を正しく選択していくことが必要になる。このためには、なによりキャリアの中心となる職業とその世界についてミニマムの理解と知識をもっていなければならない。

このため、日本労働研究機構では、平成 11 年から、新たに若年層がセルフヘルプで使用できる職業情報・職業ガイダンスシステム「職業ハンドブック O H B Y (オービィ)」を開発し、今般その完成をみたものである。

3 . O H B Y の特徴

O H B Y は、多数の職業情報を豊富な画像と併せ収録するとともに、さまざまな角度から自由に職業の世界を探索できるシステム、適職を選ぶための仕事発見テストを装備しており、多彩な職業情報とキャリアガイダンス機能を併せ持ったシステムとなっている。

また、学校や相談機関からの声を生かし、生徒など若年利用者が興味をもちどんどん自主的に探索するような魅力をもつ画面・構成とし、さらにトライした後に自分の探索の足跡やテスト結果を自動的に再確認・復習できるシステムとなっている。

(1) 豊富な職業情報

現在国内で提供されている職業情報としては最大級の 4 3 0 職業、簡易解説も加えると約 6 0 0 職業を収録し、職務の内容から入職ルート、就業条件、関係資格、類似職業、先輩の言葉など、多面的かつ簡明な解説をくわえている。

(2) 仕事の正確なイメージづくりを助ける画像情報

2 6 0 0 点にのぼる写真・イラスト・動画を収録し、多様な職業について職場環境・仕事内容とくに知的な働きなどを含む、その正確な理解と的確なイメージの形成を助けている。

(3) 仕事探検を助ける興味深く多彩な探索メニューと仕事発見テスト

職業意識の形成が遅れている中学・高校生が、興味をもって探索でき、かつその過程を通じて職業の世界を体系的に把握できるように、「職業パノラマ」「ジョブタウン探検」「キーワード探索」などのメニューを配置している。また「仕事発見テスト」を内蔵することにより、自分の日常の興味や行動から、多様な職業活動への自分の関心と適性に気づかせ、その職業キャリアの可能性を広げ、適職の選択を助ける。

(4) 探索結果の自己チェック機能

生徒が各種メニューを通じて仕事の世界を探索し、仕事発見テストを行い、一通りのコースを終わると、自動的に自分の調べてきた職業、トライしたテストの結果など一連の結果が表示される。こうして最後に自分の探索をチェックして学習の成果を定着させるシステムとなっている。

【概要】

1．OHBY開発の背景

近年、若年層においては就職難に加えて学卒無業や離職が急増し、「定職につけない」あるいは就職に背を向けて「定職につかない」若者の問題が構造化・深刻化してきている。この理由として景気・雇用の低迷もさることながら学生や生徒の進路意識とりわけ職業意識の発達の遅れが指摘され、積極的な取り組みが求められている。しかし学校における進路指導や職業相談など実践の場においては、指導の基礎となる信頼できる職業情報とその効果的な提供システムの整備の遅れが大きな阻害要因となってきた。

日本労働研究機構の「職業ハンドブック CD-ROM 版」(1998)は、職業情報提供システムとして社会の評価を得たが、これは本来、大学生・成人向けであり、中高生向けの利用には困難があった。このため機構では平成11年以来、学校や相談機関等の関係者と協力して開発研究を行い、中高生が自ら探索し学習できるガイダンスシステムの開発を続けてきた。そして今般、最新の職業情報と適職発見テストなどを統合した「職業ハンドブック中高生版 OHBY (Occupation HandBook for Youth)」の開発を終え公表頒布の運びとなった。

2．OHBY開発の狙い

OHBYの開発では、総合的な職業情報と心理テストを統合して、中高生がセルフヘルプで使えるガイダンスシステムの構築を目指した。また教育・労働の第一線の声を踏まえ、「中高生が理解できる内容・表現」「可能な限り多数の職業情報」「多角的なメニュー」「自己探索したくなるような魅力」を持ち、「自分で考えさせる」指導ツールとなるような方向で開発を進めた。

(1) 豊富で多彩な職業情報

中核となる職業情報については、中高生向けに、多面的で分かりやすい職業解説に加えて、写真・イラスト・ビデオなど画像を豊富に加え、仕事内容や職場についての正確な情報イメージを与え理解を助ける。

また職業の収録では、現実の職業の分布や中高生の職業の認知研究の成果を踏まえる。

(2) 職業や自分について調べたくなる探索システム

中高生の進路学習や職業ガイダンスにおいては、自分の関心や日常の体験から職業が探索でき、その過程において職業の構造や関連性が理解できることが重要である。そのため、例えば、日常生活で見聞する地域の企業・商店・施設などを手がかりとする探索、職業のイメージ・特徴と生徒の興味・関心とをリンクできるキーワードからの探索、さらに興味・能力など心理テストによる自己理解とそれに基づく探索という3つの探索機能が必要である。特に心理テストによる自己の能力・興味の発見と確認という過程は、自分のやりたいことに基づく進路の探索、それとリンクしての職業情報の提供というキャリアガイド

ンスシステムの重要な要素をなしている。

(3) 自分の探索・発見の結果を確認

ガイダンスソフトとして生徒が OHBY による自己の探索状況や結果を終了時にまとめてチェックすることにより、生徒が学習した職業、進路への理解を深めることができる。また進路指導担当にとっても生徒の特性や発達度、利用の進度を把握し指導上のメリットは大きい。

(4) 多様な利用が可能に

進路学習や指導における最も重要な目的の一つは「セルフヘルプ」である。生徒や利用者が自主的にこのシステムを使用して、職業情報や自己分析・確認、進路の方向性を学べるものにする。

学校での進路学習やガイダンスにおいては、「仕事調べ」や「職場探訪」などの課題実施の前後の予習や復習に活用する。

生徒・学生を対象にしたガイダンスセミナーなどの集合研修においては、職業の全般的解説やガイド部分「職業学を学ぼう」「進路選択のガイド」をプロジェクターによりスクリーンに表示し、多人数に効率よく職業や進路についての基礎知識を伝える。

OHBY は、本来中高生の利用を想定して職業情報や探索機能などの仕様やシステムを設計しているが、搭載されている職業情報や探索機能は基本的には大学生や小学校高学年にも利用可能であり、利用対象の職業発達やレディネスに応じた幅広い使用に対応する。

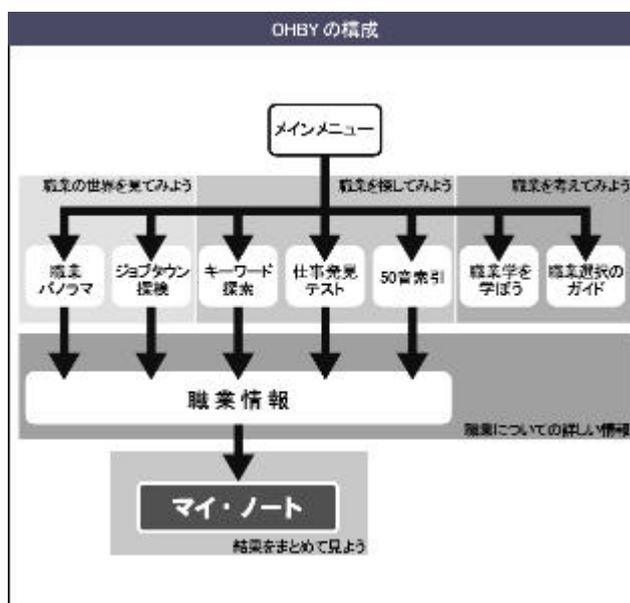
(5) OHBY の電子媒体やインターネットによる提供

CD-ROM により機能を十全に発揮して職業情報を効率的に提供する。今後、さらに充実した探索や診断機能をもつガイダンスシステムに発展させ、将来的にはインターネットでの情報提供に対応することを想定する。

3 . OHBY の構成と内容

上記の開発要件をふまえて、職業ハンドブック中高生版 OHBYは、(図 1) のような構成と内容になっている。

図 1 OHBY の構成



(1) 職業解説

職業解説は、職業の諸側面から職業を記述したもので、職業を理解する上で必須の情報である。この中高生版では、大学生・成人版(1998年版)の300職業に大幅な追加を行い、430にのぼる職業について職業解説を次の5部構成・約1650字で記述している。

「どんな職業」：仕事内容を解説

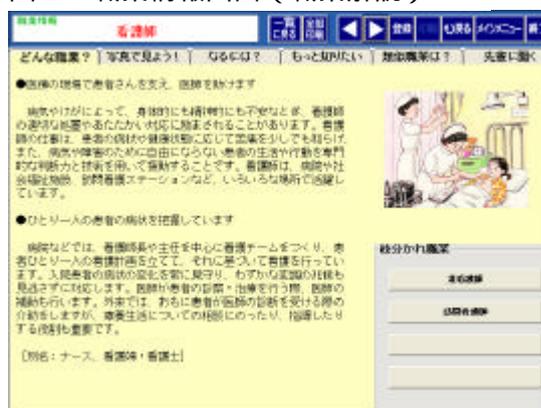
「なるには」：この職業に就くために必要な学歴や資格などを紹介

「もっと知りたい」：労働条件、就業状況などを解説

「類似職業は」：仕事内容などからその職業に類似した職業を表示

「先輩にきく」：現職の先輩から仕事のやりがいや難しさを聞く

図 2 職業情報画面(職業解説)



(2) 写真・イラストなどの映像

1 職業につき仕事内容や場面に関する6点の写真・イラストを掲載し、一部の主要職業については動画も掲載している。これらの映像は、職業の就業場面や仕事内容に沿った客観的な写真、仕事のアウトラインや頭脳労働をも表現できるイラスト、仕事の動きや流れが分かる動画など、異なる映像表現を組み合わせることで、文章記述では表現しにくい様々な側面から職業の理解やイメージの形成を助けている。

(3)「職業学を学ぼう」、「職業選択のガイド」

「職業学を学ぼう」では、職業の世界全般について5章構成のカードイメージで表示している。まず職業や産業、企業や職場について解説し、第4章では、12の職業分野について各分野（職業群）の解説を掲載している。

「職業選択のガイド」では、自己理解、職業理解、そして職業選択・就職に進むためのプロセスや要領について5章構成で解説し、カードイメージで表示している。

これらは、個々の職業の学習や心理テストで得た知識を自分なりにまとめ、体系的・構造的に職業の世界と進路選択について理解して、よりよい職業選択ができるように支援する。

(4)職業探索メニュー

関心を持つ職業を探索するとともに、体系的・構造的に理解できるよう、以下に示す5つの方法による職業の探索メニューを設けている。

図3 職業情報画面（写真で見よう）



図4 職業学を学ぼう

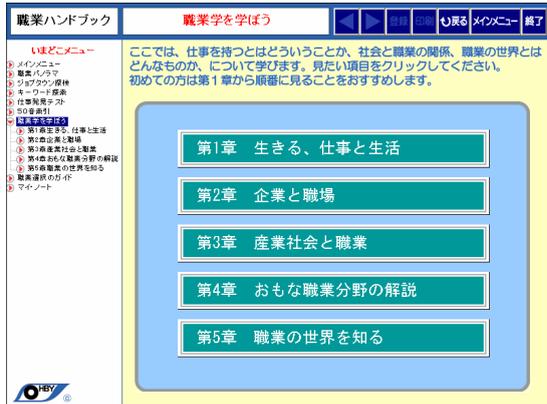
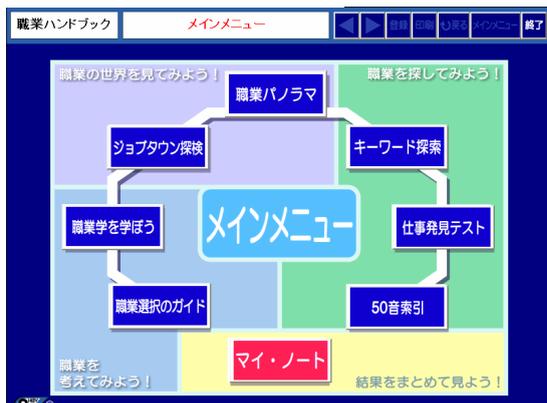


図5 メインメニュー



「仕事発見テスト」

「仕事発見テスト」は、自己理解のツールであり、かつ自分に合った職業や仕事を選び出すための探索ツールでもある。まず各18問からなる能力と興味に関する簡易テストを行うと、自分の特性や特徴が表示され、適合職業が表示される。最終的に特性に沿った職業を提示する点では職業探索ツールでもある。OHBYの中では自己と職業とを関連づける機能をもつ。

50音索引

50音索引では、50音表から1つの音を選ぶと、その音で始まる職業名一覧とそれに対応する収録職業が表示され、直接に職業情報の画面に入ることができる。別名・通称などからの探索を含め、迅速な検索やアクセスができる。

「マイ・ノート」

OHBYでは利用者の使用履歴を記録する機能「マイ・ノート」があり、自分の探索記録が確認できるため生徒本人が理解促進を進める上で大きな助けとなる。また実際の進路学習や指導において進路指導担当やカウンセラーが生徒などの探索方法や反応を観察・分析して、相談・指導を改善・改良していく上でも活用できる。

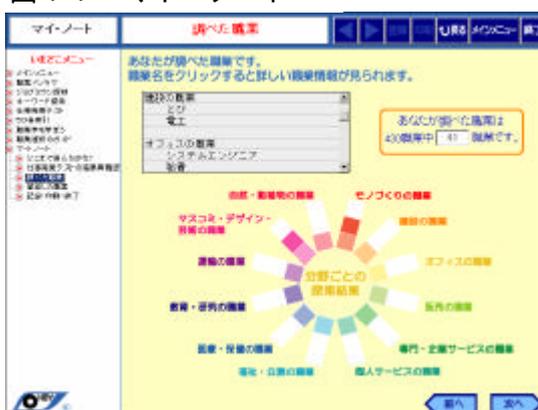
図9 仕事発見テスト



図10 50音索引



図11 マイ・ノート



4 . O H B Y の動作要件

推奨動作環境 CPU : ペンティアム 以上、OS : Windows98・98SE・2000・XP、
メモリ : 128M 以上、HD : 300MB 以上の空きエリア、ディスプレイ :
解像度 1024×768 ドット以上・TrueColor24bit 以上、CD-ROM ドラ
イブ : 24 倍速以上
(Microsoft, Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標)

5 . O H B Y の一般頒布と周知

O H B Y は、ハローワークやヤング・ハローワーク、学生職業センターなどの公的職業
紹介・相談機関などに配備されるとともに、日本労働研究機構出版部などを通じて頒布さ
れる。予定価格は 3000 円 (消費税別) で教育機関等の購入については別途割引価格とな
る。

併せて、専用ホームページを開設し内容紹介、技術情報の提供、利用者との情報交流・
サービスを行なう。